



学習評価で大切にしたいこと

「知識」は〔共通事項〕アが活用されているかを評価

「知識」は、形や色などの名前を覚えるような知識のみを表すのではなく、児童が自分の感覚や行為を通して理解したものです。評価する際には、児童が形や色などの感じ等に注目している様子を捉え、造形的な視点として分かっているかどうかを各題材で評価していきます。

「思考・判断・表現」は「発想や構想」と「鑑賞」を評価

「思考・判断・表現」の評価は、〔共通事項〕イの「自分のイメージ」をもちながら「発想や構想」と「鑑賞」をそれぞれ評価し、題材の最後に総括します。そのためには、表現と鑑賞を関連させた題材を実施するといった授業改善が大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を参考にして評価規準を設定することが必要です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。 	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりしている。	つくりだす喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

上記の「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、右の図画工作科の内容のまとまりを確認し、題材の具体的な内容も加えて、題材の目標や評価規準を作成します。

図画工作科 内容のまとまり	「造形遊び」	「A表現」(1)ア(2)ア、〔共通事項〕アイ
	「絵や立体、工作」	「A表現」(1)イ(2)イ、〔共通事項〕アイ
	「鑑賞」	「B鑑賞」、〔共通事項〕アイ

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、当該学年の「観点の趣旨」を踏まえて作成する。学習指導要領の「2 内容」には、「学びに向かう力、人間性等」について示されていないので、「1 目標」にある該当学年の目標(3)を参考に作成します。
- ・題材目標に「楽しい(豊かな)生活を創造」はあってもいいが観点別評価には入れない。「学びに向かう力、人間性等」から、観点別に学習状況を評価するものだけを「主体的に学習に取り組む態度」に示します。例えば、低学年の「形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う」は個人内評価のため入れないようにしましょう。

Point

題材に即して「表現する活動」や「鑑賞する活動」を具体的に示す評価規準を作成する。

(例)「…進んで水彩絵の具で絵に表す学習活動に取り組もうとしている。」

(中学年 絵や立体、工作)

3 観点を評価する上での留意点

知識・技能

「知識」については、〔共通事項〕アの「形や色など(低学年)」を視点として理解や活用できているかを、児童の様子と「A表現」では作品から、「B鑑賞」ではワークシートから教師が読み取ります。そして、「知識・技能」は、「知識」と「技能」の評価を考え合わせて総括します。

思考・判断・表現

各題材で「発想や構想」と「鑑賞」をそれぞれ評価し最後に総括します。そのためには表現と鑑賞を関連させ、双方を評価していくことが大切です。その際、双方の観点到〔共通事項〕イを「自分のイメージをもちながら」と示して一緒に評価します。

主体的に学習に取り組む態度

児童の学習状況だけでなく、粘り強く学習を調整しているかを状況把握するために題材の最初から最後までをしっかりと見取ります。評価する際には、発想や構想することや技能を働かせること、鑑賞することに進んで取り組んでいるかを見取り、題材の最後に評価を総括します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価とは

特に題材前半では、努力を要する状況の児童を中心に、児童への説明を変えたり、材料や技法を試す場の準備をしたり等の手立てや授業改善を行って、評価を次の授業に生かすことが大切です。

2 3観点を題材の中でバランスよく適切に評価

観点別学習状況を記録に残す場面を精選するためには、題材のまとまりの中で各観点の評価ができるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、具体的に評価の時期や評価方法等を考えておくことが重要です。

(例) 第4学年「A表現」と「B鑑賞」の授業を関連させた授業 ◇題材名 音楽会の記念CDジャケットをつくろう！
～曲のイメージにあった形や色を組み合わせよう～

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 作品を表現したり鑑賞したりする際に、自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。</p> <p>② 材料や用具を適切に扱い、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</p>	<p>① 形や色などの感じを基に、音楽会の曲のイメージをもちながら、感じたことから、表したいことを見付けることや表したいことを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</p> <p>② 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺</p> <p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺</p>

※ ① 知識、② 技能、③ 発想や構想、④ 鑑賞、⑤ 態度（表現）、⑥ 態度（鑑賞）

◇ 指導と評価の計画（全7時間） ※○…学習状況を把握し指導に生かす場面 ◎…学習状況を記録に残す場面

時	主な学習活動	知	思	主	2 評価規準・評価方法	指導に生かす評価
1	・美術作品を鑑賞し、形や色などの感じに気付く。	○	○	○	① (児童の様子、ワークシート) 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりしている。	題材前半の○では、児童の学習状況から、個に応じた手立てや授業改善を行います。
2	・曲から感じ取ったことを基に、CDジャケットをどのように表すか考える。	○	○	○	② (児童の様子、ワークシート) 形や色などの感じを基に、音楽会の曲のイメージをもちながら、感じたことから、表したいことを見付けることや表したいことを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。	記録に残す評価
3		◎	◎	◎		
4	・曲のイメージから感じ取ったり考えたりしたことを基に、CDジャケットに表せるように創意工夫して創造的に表す。	○	○	○	③ (児童の様子、作品) 材料や用具を適切に扱い、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 ④ (児童の様子、ワークシート) 作品を表現したり鑑賞したりする際に、自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。	記録に残す評価
5		◎	◎	◎		
6		◎	◎	◎		
7	・完成作品を相互鑑賞し、題材のまとめをする。	◎	◎	◎	⑤ (児童の様子) つくりだす喜びを味わい進んで形や色と関わり、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	

* 例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

Point

「鑑賞」のワークシートを工夫する

本時の「鑑賞」の評価は、授業の様子や鑑賞のワークシート等から見取ります。同時に「知識」も見取るために、ワークシートの項目を工夫し、児童の発言も含めて評価しましょう。

本時における「おおむね満足できる」状況（B）の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表]
美術作品を鑑賞し、形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、作品の造形的なよさや面白さ、いろいろな表し方等について、感じ取ったり考えたりしている。



学習評価で大切にしたいこと

「知識」は〔共通事項〕が活用されているかを評価

「知識」は暗記に終始するものではなく、「造形的な視点を豊かにするための知識」として、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果を理解することや、造形的な特徴等を基に、全体のイメージや作風等で捉えることを理解できているか評価します。

「思考・判断・表現」は「発想や構想」と「鑑賞」を評価

「思考・判断・表現」の評価は、「発想や構想」と「鑑賞」をそれぞれ評価し、授業外で総括します。そのためには、表現と鑑賞を関連させ、発想や構想でも鑑賞でも働く中心となる考えを、授業の中で効果的に生かす授業改善が大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を参考にして評価規準を設定することが必要です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

上記の「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、下記的美術科の内容のまとまりを確認し、題材の具体的な内容も加えて、題材の目標や評価規準を作成します。

中学校美術科の内容のまとまり	感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現	「A表現」(1)ア(2)、〔共通事項〕
	目的や機能などを考えた表現	「A表現」(1)イ(2)、〔共通事項〕
	作品や美術文化などの鑑賞	「B鑑賞」、〔共通事項〕

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

- 学年の「観点及びその趣旨」との関連を考慮しながら、各題材の「知識・技能」、「思考・判断・表現」の評価規準と対応させて作成する。

各題材の「内容のまとまり」の「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価規準と対応させて、文末を「～しようとしている」等で示します。評価する際には、授業中に生徒の学習状況から見取るだけでなく、粘り強く学習を調整している状況を把握するために、題材のはじめから終わりまでをしっかりと見取ります。

- 題材の目標に「感性を育み」等はあってもいいが、観点別評価には入れない。

「感性を育み」等は3年間を通した大きな目標であり、観点別評価にはなじまないため、教師の声掛けやワークシートへの記述等で行う個人内評価で行います。「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準には含まないようにしましょう。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「A表現」の場合の「知識」は、「技能」が発想や構想をしたこと等を基に表す技能であるため、生徒の様子や作品から「技能」と一緒に見取ります。「B鑑賞」の場合は、生徒の様子やワークシートから見取ります。題材終了後に双方を総括することが考えられます。

思考・判断・表現

各題材において、「発想や構想に関する資質・能力」と「鑑賞に関する資質・能力」をそれぞれ評価し、題材の最後に授業外で双方を総括して評価することが考えられます。その際、表現と鑑賞を関連させ、バランスよく評価することが大切です。

主体的に学習に取り組む態度

題材において設定した「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を、生徒が学習活動の中で「楽しく」（第1学年、「主体的に」（第2学年及び第3学年）身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう態度を評価します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1と2のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価

特に題材前半に、評価規準を通して生徒の学習状況を見取り、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげます。例えば、努力を要する状況の生徒を見て、その生徒への手立てや材料の追加をする等の授業改善を行います。

2 3観点をバランスよく評価

題材の中で、3観点をどこで見取り評価するかを教師が意識しておきます。題材の終了後に、「知識」と「技能」、「発想や構想」と「鑑賞」の評価をそれぞれ総括していくことが必要です。

(例) 第2学年「A表現」と「B鑑賞」の授業を関連させた授業 ◇題材名 ○○商品をアピールするパッケージを考える
◇ 題材の評価規準 ～商品の内容やよさ、特徴を効果的に相手に伝えよう～

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色などが感情にもたらす効果や商品の内容や造形的な特徴などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表し、制作の順序などを考え見通しをもって表している。</p>	<p>発 商品のよさや特徴を伝えることなどを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 商品の特徴を伝える目的や調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に商品の特徴を他の人に分かりやすく伝えることを基に構想を練ったり、表現方法を追求して創造的に表したりする学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に商品の特徴を他の人に分かりやすく伝えることを基に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

◇ 指導と評価の計画 (全8時間)

※**知**知識、**技**技能、**発**発想や構想、**鑑**鑑賞、**態表**態表、**態鑑**態度(表現、鑑賞)

時	主な学習活動	1 知	思	主	2 評価規準・評価方法
1	・本物の商品のパッケージを鑑賞し、表現の意図や工夫を読み取る。	知	鑑	態鑑	鑑 (生徒の様子、ワークシート) 商品の特徴を伝える目的や調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えている。 本時
2	・オリジナル商品のよさや特徴を、効果的に相手に伝えるパッケージを考える。	技	発	態表	発 (ワークシート) 商品のよさや特徴を伝えることを基に、伝える相手や内容から主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。
7	・主題を基に、商品パッケージの特徴を効果的に伝えることができるように創意工夫して創造的に表す。				技 (生徒の様子、作品) 意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表し、見通しをもって表している。 知 (生徒の様子、作品) 形や色などが感情にもたらす効果や商品の内容、造形的な特徴などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解している。
8	・完成したパッケージを鑑賞し合い、表現の意図や工夫を読み取る。		鑑	態鑑	態鑑 (生徒の様子) 主体的にオリジナル商品の特徴を他の人に分かりやすく伝えることを基に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
授業外		知技	思判表		それぞれの観点を総括する。(作品、ワークシート他)

指導に生かす評価

題材前半の□では、生徒の学習状況から、つまずきを見取り、個に応じた手立てをする等、指導改善を行います。

記録に残す評価

題材後半の□では、題材の最後や授業外で、作品やワークシート等から各観点の評価を決定し、総括します。そのためには、必要に応じ、授業内で適宜記録を残しておくことも考えられます。

*例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表]

本物の商品を鑑賞して、その商品の特徴や調和のとれた美しさなどを感じ取り、それらを消費者に効果的に伝えるために、配色や構図等、作者の表現の意図や工夫などについて考えている。

Point 「鑑賞」のワークシートを工夫する

本時の「鑑賞」の評価は、授業の様子や鑑賞のワークシート等から見取ります。同時に「知識」として(共通事項)が活用できたかを見取るために、ワークシートの項目を工夫することが必要です。